

富山経済同友会

会報

2024.7月
No. 319



第5回全国立山大使の会（6月14日）

CONTENTS

- 第5回全国立山大使の会 2
- 委員長会議 2
- 第5回交流委員会 3
- 企業経営委員会・アントレプレナーシップ小委員会・
ウェルビーイング小委員会合同委員会(拡大委員会) ... 3
- 第3回企画委員会 4
- 第7回文化スポーツ委員会 4
- 人財活躍委員会・アスリート支援小委員会
合同委員会 5
- 第4回地域創生委員会 6
- トピックス (第2回富山県庁周辺エリアマネジメント懇話会) ... 6
- 課外授業講師派遣 7
- 教育講演会等講師派遣 9
- 第6回教育問題委員会 10
- 第86回あけぼの会ゴルフコンペ 10
- リレーエッセイ^⑩ (山崎 良人 氏) 11
- 活動報告 12
- 今後の予定 15
- 事務局からのお知らせ 15
- わが青春の1枚 (山田 由理枝 氏) 16

富山愛に溢れた交流

— 第5回全国立山大使の会 —

6月14日(金)、日本橋とやま館の「はま作」で「第5回全国立山大使の会」が開かれた。全国立山大使9名が参加し、富山経済同友会からは、麦野、牧田両代表幹事、桶屋、大橋、松田副代表幹事に、伊東交流委員会委員長ら総勢9名が参加した。

日本橋とやま館内は、夏の旅行シーズンを前に立山連峰の大型パネルが壁面一面を被い、富山の雄大な自然を感じられる設えとされており、会員は久しぶりの再会を喜び、近況を語りあい、「はま作」は開宴前から熱気につつまれた。

まず、牧田代表幹事から、全国立山大使の会のメンバーが48人となったことが紹介され、「会員が少しずつ増え、確実に富山を中心としたネットワークが広がりを見せてい



牧田代表幹事

る」と挨拶。続いて鶴殿世話人のご挨拶をいただき、中沖交流委員会担当役員の乾杯の発声で交流会がスタート。

会の中盤では、全国立山大使の会員の皆さんが、順次、近況報告スピーチ。富山愛溢れる熱弁につられ、今度は現役の同友会会員が順番にマイクを握り、会場全体に談笑が沸き起こった。

「はま作」は、平成30年5月24日の全国立山大使がキックオフ会を開いた会場でもあり、富山から直送の新鮮な魚介類に氷見うどん、氷見牛など富山の味覚に舌鼓を打ち、富山の地酒もそろい、富山づくしに賑やかな集まりとなった。

会は、麦野代表幹事の閉会のあいさつで、和やかなうちに閉じられ、最後に全員で笑顔の記念撮影で締めくくった。



麦野代表幹事

11委員長が今年度の方針を語り合う

～ 委員長会議 ～

5月23日(木)、令和6年度委員長会議がホテルグランテラス富山で開催され、常任幹事以上の役員、各委員会委員長、小委員会委員長ら計20名が出席した。

7つの委員会と4つの小委員会が2年目の活動を行うにあたり、各委員長が委員会の活動方針および事業計画について説明し、担当役員のフォローを交えながらその都度質疑応答がなされた。

活動2年目を迎えた各委員会の活動をより充実した内容とすべく、委員長各々が思いを伝え合う活発な意見交換の場となった。

また、牧田代表幹事より日本海沿岸地域代表幹事サミットの今後の方向性について各地経済



同友会と協議し決定する旨の説明がなされた後、会議の最後には、進行を務めた桶屋副代表幹事から「報告書や提言書につながる活発な活動を期待する」との総括があった。

交流事業及び第42回海外経済視察について意見交換

— 第5回交流委員会 —

5月9日(木)に今年度最初の第5回交流委員会を事務局会議室で開き、交流委員長、担当役員、委員6名が参加した。

新たに交流委員長に就任した伊東潤一郎氏の挨拶と中沖担当役員の挨拶のあと、新しく加わった委員2人の紹介がなされ、議事に入った。



伊東委員長

まず、今年度の活動方針と活動計画等について意見交換を行い、来年4月の全国経済同友会セミナーをスケジュールに明記のうえ了承された。そして、委員長から、今年度の活動計画にある新会員歓迎オリエンテーションなどの各種

交流事業への委員各位の積極的な参加について協力要請がなされた。

次に、今年度の第42回海外経済視察について、視察スケジュール、参加費、申込方法などの募集要項に関して活発に意見交換がなされ、5月末を締切に参加者を募集することが了承された。また、最近の物価高騰、為替変動が費用増嵩につながらないように留意するとともに、自動車工場の見学ルートなど具体的な視察内容についても検討が行われた。

そして、8月に参加者事前説明会を開くことについて了承がなされた。



SDGs

8 働きがいも
経済成長も



Nothing is impossible

— 企業経営委員会、アントレプレナーシップ小委員会、ウェルビーイング小委員会合同委員会 —

第5回企業経営委員会（高木悦郎委員長）を、5月20日(月)、富山電気ビルディングで開催し、委員45名が参加した。まず、高木委員長より委員会の活動方針について、会員の皆様に目からウロコの感動の機会を提供することに加え、今年度はディスカッションの機会も設けたいと伝え、今後のスケジュールを出席委員と共有した。

委員会後には、アントレプレナーシップ小委員会（村上宏康委員長）、ウェルビーイング小委員会（東出悦子委員長）と3委員会合同委員会（拡大委員会）として開催し、約100名の会員が参加した。この講演会は様々な方に聞いて欲しいとの声も挙がり、より幅広く参加者を募った結果、会員企業から従業員25名、富山県、富山市からも14名がオブザーバーとして参加した。



高木委員長

講演会は、楽天グループ(株)の小林正忠氏に、「『楽天流』ウェルビーイング経営がもたらす組織の変化と企業の成長について」と題してご

講演いただいた。

まず小林氏は、仕事において Well-doing になってもらうには経営者として仲間（従業員）達の Well-being を考えるべきであり、働きやすさも大事であるが、働きがいが必要であると述べた。

また、楽天創業から現在に至るまでの数々の同社のチャレンジを例に挙げながら、「Nothing is impossible」と参加者に訴えかけた。その中で、「1回のチャンスをモノにする(1.1)、しない(0.9)生き方は1回だと0.2しか違わないが、 $0.9 \times 0.9 \times \dots$ は0に近づき、 $1.1 \times 1.1 \times \dots$ は無敵になる。このように人生という時間軸で見ると圧倒的な差が生まれる」と述べた。

講演会后参加者に対し目から「ウロコが落ちたポイント」についてアンケートしたところ、「1.1の生き方」について感銘を受けたと答える方が多かった。

講演後には、小林氏を囲んで懇親会も実施し、熱い思いを共有し合い、大いに盛り上がった。



小林CWO

委員会活動の課題等を把握する

～ 第3回企画委員会 ～

6月7日(金)、第3回企画委員会が事務局会議室において開催され、新たに就任した大橋聡司委員長、委員5人が参加した。

大橋企画委員長の挨拶の後、まず、今年度の活動方針・年間計画について意見交換がなされ、企画委員会を四半期ごとに年間4回開催すること、委員会相互の情報共有、連携促進を図る委員長連絡会を3回開催することとなった。

次に、大橋企画委員長から、企画委員会の役割は、次年度の委員会体制や委員会の諸課題への対応について検討することであると説明がなされ、



大橋委員長



まずは、それぞれが考える委員会活動の課題についてフリーディスカッションが行われた。

委員会の適正規模、活動の活性化と事務局負担、小委員会の位置づけ、地域社会が抱える課題への対応、新会員へのフォローなど、様々な観点から意見が出され、7月に委員長連絡会議を開き、各委員会の意見も聞きながら検討することになった。

SDGs



地域に根付いた劇場運営

— 第7回文化スポーツ委員会 —

第7回文化スポーツ委員会(武内孝憲委員長)を5月31日(金)、旧第一イン新湊で開催し、委員19名が参加した。武内委員長は「オペラ歌手の澤武紀行さんが地元新湊に世界一小さな劇場『ミュージックステージのり』をオープンされた。その思いについて委員会でみなさんと共有したい」と挨拶。「『政治』×『経済』×『芸術文化』の三角関係～その町に根付いた劇場運営～」と題してテノールソリストの澤武紀行氏にご講演いただいた。澤武氏は、冒頭、ベルリン国立歌劇場でのオペラ公演の写真をスライドで紹介し、「オペラ歌手として厳しい社会で30年やって来られたのもドイツで良き人達に出会えたおかげ」と当時を振り返った。その後、武内委員長との対談の中で「大きな劇場ではできないことをやりたい。生きた音楽を楽しんでいただける場所として、色々なことに取り組み、ドイツにあるような



地域に根付いた劇場を目指したい」と話した。また、氷見市で市民合唱団の総監督を務め音楽家の育成に尽力されており「市民合唱団だが実力もかなり上がっている。7月にはウィーン歌劇場の舞台に立つことになった」と紹介し、「芸術家の地産地消を目指したい」と述べた。

委員会終了後は、世界一小さい劇場「ミュージックステージのり」に会場を移し、赤いテーブルクロスがかけられたテーブルにキャンドルが灯された設えの中、澤武氏の歌声に魅了され、ゆっくりと食事を楽しみながら交流を深めた。





アスリートと地元企業のマッチングに向けて — 人財活躍委員会・アスリート支援小委員会合同委員会 —

6月19日(水)、オークスカナルパークホテル富山において、第4回人財活躍委員会・第5回アスリート支援小委員会合同委員会（森弘吉委員長・遠藤忠洋委員長）を開催し、委員28名が参加した。

森委員長は、「人財活躍委員会は兼業副業人材の活用、アスリート小委員会はプロスポーツ選手のデュアルキャリア支援について取り組んでおり、今回、デュアルキャリアで活



森委員長

躍する富山ドリームスの取組みについて、皆さんと勉強したいと思い企画した」と挨拶。

第1部では、富山ドリームス代表理事の徳前紀和氏が「デュアルキャリアでトップを！富山から発信！地域・ビジネス社会とスポーツの協働の形～ハンドボールトップチーム富



徳前 紀和 氏

山ドリームスの取り組みから～」と題して講演を行い、「ハンドボールの聖地氷見で、企業に就職しながら選手を続けられる場所を作り、企

業、プロスポーツ選手が互いに地域に貢献する仕組みを構築したいという思いで取り組んでいる。現在、アスリートと地元企業のマッチングの事業化を考えており、富山経済同友会の皆様にもご協力をいただければと思っている。」と語った。



遠藤委員長

第2部では、「デュアルキャリアによる人材の採用について」と題し、近藤建設ブランドコミュニケーション部の小宮部長が講演。「今年、創立75年の節目の年を迎え、デュアルキャリア人材の採用を行った。期待することは、多様な人材を受け入れる土壌を組織に作ること、新たなチャレンジへのエンジンの駆動力、ハンドボール選手としての二人を応援することによる社内一体感の醸成」と話した。引き続き、4月に近藤建設に入社した坂田温哉氏と高尾将吾氏が、選手の一日、デュアルキャリアについての思いや今後の目標等について発表した。

委員会終了後、徳前氏、小宮氏、坂田氏、高尾氏を囲んでの懇親会を開催。各テーブルでは、デュアルキャリア採用について更に意見が交わされ、懇親会は盛会に終了した。



共創の好循環でまちの活性化を

— 第4回地域創生委員会 —

6月21日(金)、富山電気ビルディングにおいて第4回地域創生委員会(池田治郎委員長)を開催し、委員ら48名が出席。西日本電信電話(株) ビジネス営業本部 エンタープライズビジネス営業部 エンタープライズビジネス推進部門長の寺田雅人氏を講師に招き、「NTT西日本のまちづくり・スマートシティの取組み」と題しご講演いただいた。



池田委員長

寺田氏は、まず、自社グループの紹介の中で、近年まちづくり・スマートシティ分野にも力を入れていることに触れ、その中で得た知見として“Well-Being”を軸とする最新のまちづくりトレンドを説明。「まちなかのデザイン“ウォークアブル”」「都市全体のデザイン“デジタル実装”」の大きく2つのまちづ



寺田講師

くりへのアプローチについて解説した。

続けて、寺田氏は、そうしたトレンドを踏まえ自社が大阪・関西エリアで展開するまちづくりの取組みを紹介。2050年を目標として大阪の目指すべき都市像やまちづくりの方向性・取組み等を整理した「大阪のまちづくりグランドデザイン」に基づく、「大阪府市スーパーシティ」「2025年大阪・関西万博」の取組みを直近事例として説明するとともに、地域課題解決に必要なキーワードとして「共創・オープンイノベーション」を挙げ、自社で手掛ける2つの事業共創施設「LINKSPARK(個別顧客のDXを推進)」「QUINTBRIDGE(会員同士のオープンイノベーションを促進)」について、その意義や実績を語った。

最後に、寺田氏は、富山でもDX推進の共創拠点を整備することによりONEチームで県内活性化を図るという富山の将来ビジョンを提案し、講演を締めくくった。

なお、今回の講演会で紹介いただいた先進的取組みについて、現地で活気を体感する大阪視察を8月に予定している。



ありたい姿実現へ

— 第2回富山県庁周辺エリアマネジメント懇話会 —

5月9日(木)、富山県民会館において第2回富山県庁周辺エリアマネジメント懇話会を開催。座長の牧田代表幹事を始め、品川祐一郎富山商工会議所副会頭、齋藤滋富山大学学長、難波悠東洋大学大学院教授(オンライン)、新田八朗富山県知事、藤井裕久富山市長ら、懇話会メンバー6名が出席した。西村幸夫東京大学名誉教授・國學院大學観光まちづくり学部学部長は、書面でコメントを寄せた。

議事では、県が「県庁周辺エリア未来ビジョン取りまとめに向けた論点整理」を提示。第1回懇話会での意見ならびに県・富山市の若手職員や富山大学の学生によるワークショ

ップ等での検討結果を踏まえ、県が取りまとめたもので、エリアの現状と課題が整理され、3つのありたい姿とその実現に向けた検討事項が示された。

その後の意見交換では、エリアのありたい姿の実現に向け様々なアイデアが挙がる中、エリアマネジメントにあたって「まずは“エリアコンセプト”を定めることが必要」との認識が共有された。





— 課外授業講師派遣 —

第1回 富山県立新湊高等学校

5月1日(木)、山野昌道氏(株チューリップテレビ取締役社長)が富山県立新湊高等学校にて商業科1・2学年76名を前に「自分の夢の見つけ方」と題して課外授業を行った。

山野社長ははじめに、「なぜ働かなければならないのか」を生徒に問いかけ、「社会はみんなで作るものであり、働くということは社会を作る一員としてそれぞれの役割を担うことである」と話した。

将来の夢を見つけるためには、「考え続け、行動し続けることが大事」であり、「一日一日を一生懸命生きる、日々の積み重ねが将来の自分をつくる」と説いた。そして、成功するには努力が必要であるとした上で、「やりがい」について、「苦勞のないところにやりがいはなく、辛く厳しい体験が感動に繋がる。苦勞や努力して達成した時にやりがいや感動になる。その『やりがい』は与えられるものではなく自分でつくるものである」と語った。

また、充実した人生を送るためには、行動することが大切であるとし、「一歩踏み出すことで変化が起き新しい景色が見える。面白いことは自分でつくりたいといけない」と述べた。そして、人生を幸せにするコツとして、「迷ったらやる」「人のせいにしない」「前向きに考える」の3つを紹介した。

最後に、自分の夢を見つけるには、「知識を得る」「大人に聞く」「やってみる」「目の前のことに真剣に取り組む」ことが大切であるとし、「人生は選択の連続で迷うことがあると思うが、どちらを選んだ方が正しかったかは一生分からない。大事なことはこれを選んで良かったと思えるようにその後の行動で正解を作っていくことである」と強調して授業を締めくくった。



第2回 砺波市立般若中学校

6月7日(金)、杉野岳氏(株スギノマシン代表取締役副社長)が砺波市立般若中学校にて2学年38名を前に「働くということ～皆さんに聞いて欲しい事・考えて欲しい事～」と題して課外授業を行った。

杉野副社長ははじめに、いろいろなことを自分で考えること、聞いたことを考えて発言することの大切さを説き、講義時間の半分を質疑応答に充ててリアルタイムの対話を求めた。

働くことについて、仕事とは世の中に必要とされなければ存在し得ないとしたうえで、「仕事に貴賤はなく、どんな仕事でも等しく尊い。また、『社会の歯車＝社会に欠かせない存在』であり、自分や当社が社会の歯車であることを誇りに思う」と語った。

また、「脱階層認識」として、「大企業>中小企業、都市部>地方、大学>高専、普通科高校>専門高校」というような上下優劣の偏見を取り払って、自分がやりたいこと、得意なことは何か、それに対してどのような仕事があるのか、どのような勉強をする必要があるのか、という

見方でこれからの人生の選択をしてほしい」と呼びかけた。

後半は、生徒から寄せられた質問にざっくりと答えた。「仕事と授業はどちらが楽しいか」の問いには、「授業は答えを知っている人がいる。仕事は答えを知っている人はおらず、問題さえ自分で見つけなければならない。出した解がベストだったのかも分からないが、その分責任感ややりがい、達成感や授業の比ではない」と答えた。また、仕事と趣味の両立について、自身の趣味である自転車の話を交えながら「時間の使い方の工夫により、仕事と趣味は両立できる」などと回答した。

最後に、「皆さんには無限の未来が広がっている。ぜひがんばってほしい」とエールを送って締めくくった。



第3回 小矢部市立津沢小学校

6月13日(木)、種昂哲氏(㈱スタジオシュワリ代表取締役)が小矢部市立津沢小学校にて6学年40名を前に「初めて会社を立ち上げるみなさんへ」と題して課外授業を行った。

種昂代表は、キッズショップの立ち上げを控えた児童たちに、企業理念、コンセプトの大切さとクリエイティブに発想することの大切さについてグループワークを交えて説いた。

まず、なぜ企業理念・コンセプトが必要かということについて、会社は1人ではできないとしたうえで、「コンセプトがあることにより、チームで同じ方向を向いて仕事をするができる。それが一貫性をもった世界観やブランドをつくることに繋がる」と語った。そして、コンセプトを作るためには、①どんな物を売りたいか、②どんな人に買ってほしいか、③買った人にどんな気持ちになってもらいたいかを考えるとよいと助言した。

ただし、それだけではありきたりなものにな

るとして、「他との差別化をして一歩先に行くには、クリエイティブな発想が必要である」と語った。クリエイティブな発想をするために自身が実践していることとして、①何でもよく調べること、②人の話をよく聞き素直に受け止めること、③恥ずかしがらず、失敗を恐れずに口に出すこと、行動すること、④考えながら日常を過ごすこと、⑤他の分野にも興味をもつことの5つを紹介した。

最後に、「クリエイティブな発想にできることは、今世の中にない新しい価値観を生み出すこと、今この場所で、この人としかできないことができることである」と語り、これからキッズショップを立ち上げる児童にエールを送り締めくくった。



第4回 高岡市立牧野中学校

6月25日(火)、牧田和樹氏(㈱MGG取締役社長)が高岡市立牧野中学校にて2学年91名を前に「働くこと」と題して課外授業を行った。

牧田社長は、社会のしくみとして、顧客と会社と社員の関係について、レストランを例に説明した。まず、顧客と会社の関係について、「レストラン(会社)は料理(商品)を提供し、顧客が代金を支払う。代金に見合わない料理を提供するなど、料理やサービスと代金が釣り合っていない場合、レストランの商売は成立しない。釣り合うためには、顧客に満足してもらうような商品を提供する必要がある」と述べた。

続けて、会社と社員の関係について、「会社は顧客の役に立たなければならないが、会社が顧客の役に立つことは、そもそも会社にいる社員が顧客を満足させる仕事をしなければならず、そのためには技量(力)を身につけることが必要で、顧客が支払った代金の中から、その技量に応じて給料(報酬)を得ることになる」と語

った。そして、「いま学校で学んでいることや経験していることは、何の役に立つのか疑問に思うかもしれないが、働いたときに必要な技量の基礎になる」と繰り返し伝えた。

最後に、14歳の挑戦に向けて、「お店や会社などにおいて、お客さんのどんな役に立っているのか、そのためにはどんな技量が必要なのかを、しっかり学んできてほしい」と強調し授業を締めくくった。

質疑の時間には、多数の生徒が質問した。「技量は勉強でしか身につけられないのか」という質問に対しては、「技量は知識×経験であり、知識と経験の両方が必須だが、中学生のときは知識を蓄えることが大切」とし、「小学校、中学校の勉強の積み重ねが知識の土台となるので、頑張ってもらいたい」と生徒にエールを送った。



中堅教員へのメッセージ

— 富山市中堅教諭等資質向上研修 —

6月25日(火)、荒井洋平氏(株宝来社代表取締役)、森弘吉氏(株エムダイヤ代表取締役)が、中堅教諭等資質向上研修「社会に学ぶ研修会」(富山市教育センター主催)において経験年数11年目の教員55名にオンラインで講演を行った。



<荒井 洋平 氏>

荒井代表ははじめに、創業当時の会社の歴史に触れ、ディスプレイ業や建設業を取り巻く環境について説明した。

建設・内装業界において、ハウスメーカーやゼネコンと比較して知名度が低いとされるディスプレイ業だが、現場の環境改善等により女性の割合が増えてきている。また、「施工管理職の採用と育成」は会社としても課題であり、設計職は学校でのプログラムもあり志望する学生が多いが、施工管理はあまり知られておらず、採用が難しいと話した。

続けて、建設業界を取り巻く環境として、勤務者の給与水準は他産業よりも高く、毎年賃金も

上がってきていることを示し、これから働く人にとって魅力は高まっているのではないかと語った。

また、若手の育成について、「自分らしさを大切にする」、「承認欲求が強い」、「効率性を重視する」、「世界中の人とつながるフラットなコミュニケーション力」など、いわゆる「Z世代」の特徴を挙げ、「ベテラン管理職が若手社員とのコミュニケーションに難しさを感じていると思うこともあるが、若手社員はデジタルネイティブであり、新しく導入したITツールへの順応や資料作成等の業務が早いことが強み」と、若い世代の価値観・考え方が移り変わってきていることを示した。

最後に、「教員という職業は、環境的にも制度的にも変化に柔軟に対応する力が求められる大変な職業だが、かけがえのない必要な職業。ぜひがんばっていただきたい」と激励し、講演を締めくくった。



<森 弘吉 氏>

森代表はまず、自己紹介として自社の事業内容や取組みを紹介した。そして自身の経験を踏まえ、日頃心がけている考え方や価値観について、

教育と結びつけながら語り、受講者は話に引き込まれていった。

稲盛和夫氏の人々が成功するための公式(成功=能力×熱意×考え方)を挙げ、会社や自身の考え方を正しい方向に向けることが大事であるとしたうえで、自身が心がけていることや考えていることとして、

- ・信頼関係を築くこと
- ・人との出会いやご縁を大切にすること
- ・時間管理のマトリックス
- ・変化への対応

を大切にしていると述べた。中でも、信頼は未来に向けて根柢なく頼ること、信用は過去の実績に基づき信じることであり、信頼される人であるよう心がけていると強調した。また、リーダーとしては、

- ・現状に甘んじない改革思考としっかりとした戦略性。それらを裏打ちする高い倫理観。「なすべきことをなす」という価値観
- ・伝えることと伝わることは違う。だからこそ何度も繰り返し、ぶれずに表現を変えながら、組織の考え方を伝えること

を心がけていると語った。

最後に、自身の子育て論を交えながら、教育に望むこととして、「知恵を使って過去に事例がないことに対して決断し、行動できる人を育ててほしい」「自己決定の機会を与え、自己責任で失敗した際には寛容であってほしい」「児童生徒が没頭するようなわくわくする経験をさせてほしい」と伝え講演を締めくくった。



教師と企業人との交流を

— 第6回教育問題委員会 —

第6回教育問題委員会（土屋誠委員長）を6月11日(火)、富山県民会館で開催し、委員23名が参加した。

土屋委員長は、冒頭挨拶の後、今年度の委員会活動計画として、課外授業や5経済同友会教育担当委員会交流会、県教育委員会との意見交換など引き続き取り組む課題や、海外教育事情視察の後継事業「教師と企業人との交流」について説明し、委員へ協力を求めた。



土屋委員長

後半は、一般社団法人 Teena Light 代表理事山辺雄翔氏の活動を紹介した。山辺氏は立山町出身の大学生で、学習塾を経営する傍ら、生きづらさを抱える10代を対象とした相談援助事業や社会的養護を必要とする子どもの進学支援を

展開されている。「なりたい自分を誰もが思い描ける世界をつくる」をビジョンに掲げ、現代教育に求められる視点について、「子どものストレングス（すでにできていること）



山辺代表

に焦点を当て、否定されない安心感と小さな成功体験が逆境を乗り越える精神的な強さを育む」と述べた。一人ひとりの価値を高めていくことが重要であるとし、『『できないこと』をどうするかという議論でなく、『できること』に着目することを今後一層大事にしていかなければならない』と語った。

参加者一同は熱心に聞き入り、質疑応答の時間にも質問が相次いで盛会となった。

第86回あけぼの会ゴルフコンペ

— 優勝は奥野博之氏 —

6月16日(日)、呉羽カントリークラブ日本海コースにて第86回ゴルフコンペを開催し、79名のあけぼの会会員が晴天の下、熱戦を繰り広げた。

懇親会は麦野代表幹事より「前回から26名の会員が増え、今回はそのうち16名の方に参加いただいた。実質過去最多の参加となったが、秋にはこれを上回ることを確信しております。」と開会の挨拶があり、中尾特別顧問の乾杯で盛り上がるなか、表彰式へと続いた。

優勝の栄冠はネット71.6で奥野博之氏（オークス株）が獲得、麦野代表幹事から優勝賞品と記念品の富山ガラス工房の花器が手渡された。優勝の弁で奥野氏は「次回も朝乃山のように優勝を目指して頑張りたい。」と



述べた。

また、麦野・牧田両代表幹事から代表幹事賞の提供があり、麦野代表幹事賞は、開上真樹氏（株北陸博報堂）が、牧田代表幹事賞は井深亜希氏（三井住友海上火災保険株）が受賞し、それぞれ富山県ゆかりのガラス作家による作品が贈られた。

事務局が昨年度の会計報告を行い、長谷川達雄世話人代表から「秋の大会も皆さんに楽しんでもらいたい。是非とも参加を。」と挨拶し懇親会を締めくくった。

(敬称略)

順位	氏名	OUT	IN	GROSS	HDPC	NET
優勝	奥野 博之	47	45	92	20.4	71.6
準優勝	高林 幸裕	48	44	92	20.4	71.6
3位	森藤 正浩	45	45	90	18.0	72.0
4位	四十物 直之	42	41	83	10.8	72.2
5位	塩井 保彦	49	51	100	27.6	72.4



我が家と富山

山崎良人

(株式会社 JTB 富山支店長)

2023年1月17日、2月1日付富山支店長の拜命を受けた。全国展開をする会社に就職した以上、勿論あり得ることなのだが入社以来、名古屋近郊の職場で働き、自宅より通勤してきた自分にとって、この転居を伴う異動は大学時代以来の転機であった。いの一番に妻に連絡をし、当然、子供が小学校高学年でもあることから、単身赴任を前提で話をするのだが何だか噛み合わない。妻は明日にでも住居を見に行きたいという。正気かと思ったが、まあ冷静になれば現実に戻るだろうと思い、おもむくままに。

このわずか2週間で、業務の引継ぎも行う必要があり、当然自分の新しい生活環境への手当てが後回しになる。そんな中、妻は子供たちを引き連れ、早速、愛知より富山へ日帰り視察を敢行する。翌日、富山視察を終えた妻の最初の一言。「何と戸建ての賃貸がある」「念願の戸建てに住める」正直、面を食らったが、それはそれで良いのかと思いつつも、話を本題（現実）に戻す。

学校が変わり勉学は心配ないのか？ 友達と別れるのは寂しくないのか？ 習い事のバスケやサッカーは今のチームで続けたくないのか？ 様々なネガティブな質問を投げかけたが、子供達の答えは現実のロストよりも新しい出会いに魅力を感じるという内容であった。自分の子供時代には考えられないリアクションであったが、その想いを尊重し、4月より富山で暮らすこととなる。

さて新学期、自分ですらまだ新しい環境に慣

れない中、友達出来るのか？ 学校生活はスムーズにいくのか？ 習い事は上手くいくのか？ 心配が尽きない。案の定、スタート時は立ち行かない場面が見られた。宿題が多すぎる。（さすが教育県！）友達との距離感が分からない。新しく買ったバスケやサッカーでどこまで自分を出していいのかが分からない等々。しかし、子供の適応力は想像を超え、3か月も経つと、変化を日常と受け入れ、自分のライフスタイルとして吸収していく。そして新たなコミュニティを築く。そんな子供たちの姿を見て自身も発奮する。必然と親子の会話も今まで以上に増える。

1年が経ち、今となれば、立山に囲まれながらの日常生活は当たり前の景色で、雨や雪も気にならない。なんなら富山弁が我が家でも飛び交う。

「変化は人を育てる」とはまさにこのことで、もう過去を羨む時間は我が家には必要がない。世の中が目まぐるしいスピードで変化する中、子供達にとって、適応力と耐性が養われたことが将来必ずやプラスに働くと思わずにはいられず、このプライスレスな日常に感謝の気持ちで一杯である。本当に家族で富山に来て良かった。

最後に、最近の家族の口癖。「今度転勤になったらパパ一人で行ってね。私たちは富山にいます。」いやあ、本当に良かった（笑）。

（次号は株式会社 I H I 北陸支社長の
中村信一様です。）

活動報告

5月1日～6月30日

○委員会

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
5月9日(木) 10:00～11:00 事務局会議室	第5回交流委員会	2024年度活動計画について	8名
5月14日(火) 17:00～18:15 事務局会議室	教育問題委員会 第3回正副委員長会議	2024年度活動計画について	8名
5月20日(月) 15:30～15:50 富山電気ビルディング	第5回企業経営委員会	今年度の活動計画について	45名
5月20日(月) 16:00～19:10 富山電気ビルディング	第5回企業経営委員会 ・第2回ウェルビーイング小委員会・第1回アントレプレナーシップ小委員会(合同開催・拡大委員会)	講師: 楽天グループ(株) CWO 小林 正忠 氏 演題: 「『楽天流』ウェルビーイング経営がもたらす組織の変化と企業の成長」	約100名
5月31日(金) 17:00～20:30 旧第一イン新湊	第7回文化スポーツ委員会	講師: テノールオペラ歌手 澤武 紀行 氏 演題: 「政治」×「経済」×「芸術文化」の三角関係～その町に根付いた劇場運営～	19名
6月7日(金) 15:30～16:30 事務局会議室	第3回企画委員会	2024年度活動計画について	6名
6月7日(金) 17:00～18:00 事務局会議室	企業経営委員会 第6回正副委員長会議	第29回景気定点アンケートについて 県内企業視察について	7名
6月11日(火) 17:00～20:00 富山県民会館	第6回教育問題委員会	2024年度活動計画について 活動紹介: (一社) Teena Light 代表理事 山辺 雄翔 氏	23名
6月19日(水) 17:00～20:10 オークスカナルパーク ホテル富山	第4回人財活躍委員会 ・第5回アスリート支援小委員会(合同開催)	講師: (一財) 富山ドリームス 代表理事 徳前 紀和 氏 演題: 「デュアルキャリアでトップを! 富山から発信 “地域・ビジネス社会とスポーツの協働の形～ハンドボールトップチーム富山ドリームスの取り組みから～」 講師: 近藤建設株式会社 ブランドコミュニケーション部長 小宮 充博 氏 坂田 温哉 氏、高尾 将吾 氏 テーマ: 「デュアルキャリアによる人材の採用について」	28名

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
6月21日(金) 17:00~20:10 富山電気ビルディング	第4回地域創生委員会	講師：西日本電信電話(株) ビジネス営業本部 エンタープライズビジネス営業部 エンタープライズビジネス 推進部門長 寺田 雅人 氏 演題：「NTT 西日本のまちづくり・ス マートシティの取組み」	48名
6月24日(月) 11:00~13:00 事務局会議室	文化スポーツ委員会 第7回正副委員長会議	今後の活動について他	8名

○課外授業講師派遣

開催日時	学 校	対 象	講師・演題
5月1日(水)	富山県立新湊高等学校	商業科1・2学年 76名	山野 昌道 氏 「自分の夢の見つけ方」
6月7日(金)	砺波市立般若中学校	2学年 38名	杉野 岳 氏 「働くということ～皆さんに聞いて欲 しい事・考えて欲しい事～」
6月13日(木)	小矢部市立津沢小学校	6学年 40名	種昂 哲 氏 「初めて会社を立ち上げるみなさんへ」
6月25日(火)	高岡市立牧野中学校	2学年 91名	牧田 和樹 氏 「働くこと」
6月25日(火)	富山市中堅教諭等資質 向上研修	富山市内小中学校 11年次教員 55名	荒井 洋平 氏 森 弘吉 氏

○その他派遣

開催日	内 容	場 所	出席者
5月27日(月)	第1回 地域の教育を考えるワークショップ	【新川学区】 新川文化ホール	伊東 潤一郎 氏 杉野 岳 氏
5月29日(水)		【砺波学区】 砺波市文化会館	佐藤 幸博 氏 山田 由理枝 氏
5月30日(木)		【高岡学区】 高岡文化ホール	北村 耕作 氏 津嶋 春秋 氏
6月3日(月)		【富山学区】 富山県民会館	稲葉 伸一 氏 土屋 誠 氏
6月28日(金)	第2回 地域の教育を考えるワークショップ	【富山学区】 富山県民会館	土屋 誠 氏 寺島 雅峰 氏

○同友会諸会合

開催日	内 容	場 所	出席者
6月3日(月) ～4日(火)	令和6年度中央日本地区事務局長会議	山梨県	上田事務局長

○その他の会合

開催日	内 容	場 所	出席者
5月2日(木)	令和6年度北陸新幹線建設促進富山県民会議 通常総会・合同総決起大会	ANA クラウン プラザホテル富山	麦野代表幹事
5月9日(木)	第2回富山県庁周辺エリアマネジメント 懇話会	富山県民会館	牧田代表幹事
5月13日(月) ～19日(日)	富山県・遼寧省友好県省締結40周年記念 友好訪問団	中国遼寧省	牧田代表幹事
5月23日(木)	2024年度委員長会議	ホテルグラン テラス富山	20名
6月6日(木)	富山県国際経済交流推進協議会 定時総会	ANA クラウン プラザホテル	上田事務局長
6月11日(火)	キャリア教育指導者養成研修（助言者）	パレブラン 高志会館	稲葉 伸一 氏 川合 紀子 氏 黒川 央 氏 寺島 雅峰 氏 東澤 善樹 氏
6月12日(水)	富山県民ボランティア総合支援センター 第24回通常総会	富山県民会館	上田事務局長
6月14日(金)	第5回全国立山大使の会	はま作 (日本橋とやま館)	立山大使 9名 代表幹事等役員 9名
6月16日(日)	第86回あけぼの会	呉羽カントリー クラブ	79名
6月20日(木)	第23回あいの風とやま鉄道利用促進協議会	富山県民会館	麦野代表幹事
6月30日(日)	同友会の日 「富山GRNサンダーバーズ」観戦	県営富山野球場	雨天のため中止

今後の予定

開催日	対象	行事	場所
8月20日(火)	令和5年10月以降入会新会員 正副代表幹事、 常任幹事、 各委員会委員長、 交流委員会委員	新会員歓迎オリエンテーション・懇親会	オークスカナル パークホテル富山
9月8日(日) ～16日(月・祝)	全会員	第42回海外経済視察	ドイツ
9月23日(月・祝)	あけぼの会会員	第87回あけぼの会	呉羽カントリー クラブ
10月1日(火)	幹事以上	10月幹事会	ホテルニュー オータニ高岡
10月1日(火)	全会員	10月会員定例会 講師：元プロラグビー選手 嶋山 健介 氏	ホテルニュー オータニ高岡
10月6日(日)	全会員	同友会の日「カタールレ富山」観戦	富山県総合運動公園
11月8日(金)	正副代表幹事 交流委員長	第32回経済同友会中央日本地区会議	山梨県甲府市
12月3日(火)	全会員	海外経済視察報告会・年末定例会（教育問題委員会主管）・懇親会 講師：室井 滋 氏、鍋田 恭子 氏	ANA クラウン プラザホテル富山
1月15日(水)	幹事以上	新年幹事会・富山県知事との昼食会	富山電気ビルデイン グ
1月27日(月)	全会員	1月会員定例会（地域創生委員会主管） 講師：福島国際研究教育機構 理事長 山崎 光悦 氏	オークスカナル パークホテル富山

事務局からのお知らせ

事務局体制に変更がございましたので、お知らせいたします。

<富山経済同友会事務局メンバー>

事務局員（6/1～） なかつぼ みなこ
中坪 美奈子

なお、高坂美和子（前 事務局員）は、6/30をもって退職いたしました。お世話になりました。



高坂 美和子 氏（右）

〔表紙写真〕

第5回全国立山大使の会

6月14日(金)

東京日本橋とやま館内の「はま作」にて開催。
交流会終了後の記念撮影の一枚。

発行所

富山経済同友会

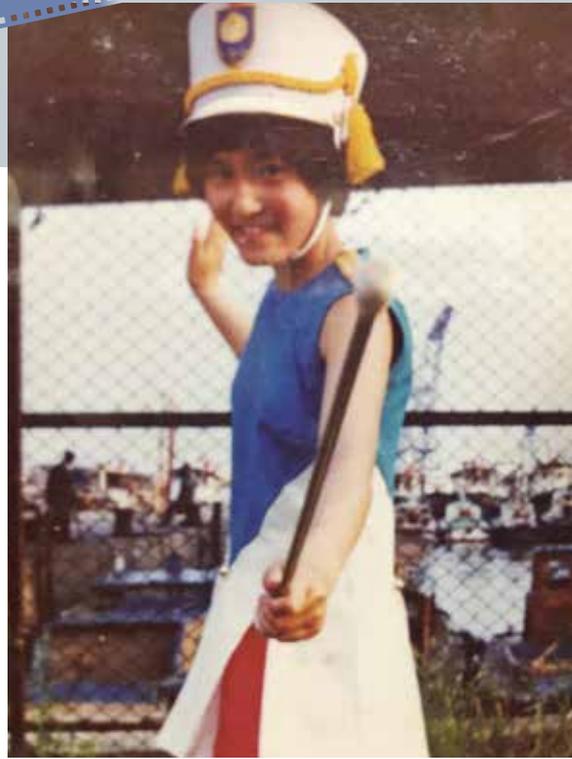
富山市牛島新町5番5号 インテックビル4階

電話 (076) 444-0660

F A X (076) 444-0661

e-mail: doyukai@po.hitwave.or.jp

https://www.doyukai.org/



大阪万博のパレードにて



人生は挑戦

株式会社山秀木材 ヤマヒデホーム 専務取締役

山田由理枝

この写真は半世紀前のPL学園高校バトン部時代のもので、甲子園決勝戦まで応援に行った思い出は、私にとって一生の宝物になっています。

26才の時にお見合いで、富山県南砺市井波へ嫁いで44年の月日が流れました。物心ついた時には家族全員で毎朝6時には神棚にお詣り「人間は世の為人の為に生きる事が大切」と父から聞かされる日々でした。その頃に「おせっかい」の基礎が築かれたのだと思います。今では南砺市婚活支援の「なんとおせっ会」の活動は、私の喜び趣味になっています。幸せ家族が一軒でも増える事が、平和への一歩だと思って取り組んでいます。主人と親戚の大工さん達と共に「ヤマヒデホーム」を立ち上げたのが26年前です。40才過ぎてからの国家試験挑戦でした。高瀬神社へ毎朝5時に起きて100日間合格祈願お参りしました。お陰様で現在555軒のヤマヒデファ

ミリー様が誕生致しました。「木を知り尽くした職人が建てる家」に一步踏み込んだ瞬間から、木の香りに包まれる家、木の家ならではの住み心地。天然素材が持つ自然の暖かさは、床暖房要らず、お子様が元気に一年中裸足で過ごせる。洗濯物が部屋干し出来る、半日で乾く。結露が出ないのでカーテンが綺麗に保てる。カビが生えにくい。遮音性能が良くて音がもれない、外の音も聞こえない。などなど喜びのお声を頂いています。家は人生の歴史を刻む場所です。愛着が沸く、帰りたくなる家、夢と一緒に叶えます。わが家の舅の山田秀三は今年107才を迎えます。毎朝毎晩お風呂に入り、着替えも自分で、食事も、トイレも全て自分で出来ます。戦争後モンゴルで捕虜になり苦勞して日本に帰って来られたそうです。その経験から「人生は挑戦」と言う言葉が山田家の家訓になっています。